

令和5年度 学校評価書 (計画段階・実施段階)

福岡県立久留米筑水高等学校

自己評価
学校運営計画(4月)
学校運営方針
昨年度の成果と課題
年度重点目標
具体的目標
評価(総合) B

学校運営協議会評価
自己評価は
A: 適切である
B: 概ね適切である
C: やや適切である
D: 不適切である
B

評価項目 具体的目標 具体的方策 評価(3月) 次年度の主な課題
教務課
企画庶務課
生徒指導課

項目ごとの評価 学校運営協議会からの意見
個別最適な学びについては、ICTを活用した取組ができています。基礎学力の定着が重要である。
PTA活動については充実が図られている。筑水通信のホームページ掲載を次年度はしっかりと行ってほしい。
いじめの未然防止への取組は大変良いと思われる。いじめの減少等の比較の仕方についてはどのようにしているのか。県のデータはあるが、他校との比較ができないため、根拠資料の工夫が必要である。

保健課	生徒の健康増進と安全に対する意識を醸成するとともに、学習環境の整備と保全を心がけた美しい学校作りを目指す。	健康と安全に関する啓発活動の一環として、保健だよりの充実を図る。	A	A	B	・生徒の美化意識の醸成を図るために、これまで以上に生徒への声掛けをし、掃除監督・指導を行う。また、生徒数減に伴う掃除区域の見直し、美化コンクールの実施内容の見直し等を行う。 ・感染症予防の観点から、今後も衛生管理に努める。 ・健康・安全に関する啓発活動として、保健だよりのさらなる充実を図る。	B	衛生管理については今後もしっかりと行ってもらいたい。保健だよりには大変良い内容が掲載されており、更なる充実をお願いしたい。	
		健康診断・調査を通して生徒の健康状態を把握し、個別指導・支援につなげる。	A						
	授業や学校行事等において、生徒の衛生面、安全面の管理を徹底する。また、生徒の美化意識の醸成を図るために、美化委員を中心とした美化コンクールの実施と道具の整備等にあたる。	B							
教育相談・特別支援教育の充実を図る。	学校生活アンケートをもとに面談週間を実施して個々が抱える悩みや問題などを把握し、いじめ等の早期発見・早期対応に努める。	講演会や保健だよりの等を通して、他者との関わりやストレス対処法についての教育を行う。	A	B	B	・面談週間の実施により、生徒個々の悩みや問題の把握に努め、解決に繋げられるよう努める。また他者との関わり方とストレス対処法等について、他課との連携、保健だよりの発信等を通して行っていく。 ・「特別支援教育」について今年度は、通級についての動画視聴を行った。来年度は、講師を招いての職員研修会を実施し、職員の特別支援教育への理解を深める啓発に努めたい。	B		
		合理的配慮が必要な生徒に関しての研修会等を行い、職員間の共通理解を図り、支援策を充実させる。	B						
		進路学習や進路ガイダンスを充実・発展させ、主体的に進路について考えさせる。	B						
進路指導課	進路意識の向上	キャリアパスポートの活用を通して、自分の能力や適性を把握させる。	C	B	B	・各学科が担っているキャリア教育を把握し、進路指導課で強化していくことが次年度の最大の課題である。 ・今年度は、卒業生との懇談会を希望学科が実施し、生徒たちは将来像がリアル化できた。 ・就職希望者の職場見学を一人2～3社実施できた。進学希望者のオープンキャンパス参加等を制度化し実施させたい。	B	農業関係への進学、特に国立大学への進学を達成できるとよい。就職については求人も大変多く、希望進路へ行っている。介護関係の求人は多いため、生徒募集につなげる必要がある。	
		インターンシップ・職場見学・オープンキャンパス・大学訪問等を経験させる。	A						
		生徒一人ひとりに関して、学年・学科と共通認識を図り、きめ細かい進路指導を行う。	A						
進路実現支援体制の構築	各学科と連携し、さらに補強すべき力の育成を提案するとともに、進路先開拓を行う。	朝学の実施、基礎学力テストの事前事後指導を通して、学力向上と進路実現を図る。	B	A	A	学年・学科・進路と一体となり、3年生一人ひとりの進路実現を支えることができた。また、専門性を活かした進路開拓も、学科の尽力で一部成功したが、まだ不十分な分野は次年度の課題として残る。chromebookを利用した朝学の取り組みを始め、落ち着いた一日の始まりを迎えることができている。体制は整ったが、次年度はフィードバックに力を入れ、学力向上の成果を上げたい。	B		
		各学科と連携し、さらに補強すべき力の育成を提案するとともに、進路先開拓を行う。	A						
		朝学の実施、基礎学力テストの事前事後指導を通して、学力向上と進路実現を図る。	B						
広報情報課	教職員・生徒を対象としたIT関連知識・技術について習得・推進する。	生徒に対して学習面と進路面に関する有益な情報を伝えるために、様々なネットワーク機器(校務パソコン、校内ネットワーク、電子黒板、タブレット等)を活用した指導技術の向上に努める。	A	B	B	ICTを活用した様々なネットワーク機器(校内ネットワーク、電子黒板、タブレット等)をスムーズに使用し、業務の効率化を改善できた。また、ICTを活用した授業改善にも貢献し、わかりやすく、学習意欲の向上に繋がった。学校ホームページに関しては、生徒・保護者の多様なニーズに十分対応できておらず、ICT支援・専門業者の協力を得ながら、本校の魅力が伝わる中身に改善していく必要がある。	B	学校ホームページの自校管理は大変だと思われる。日々の実習等の更新は重要だが、業者委託にしても良いのではないか。そのための県への予算要求も必要ではないか。	
		本校の全職員が、学校ホームページ等を活用し、積極的に外部に情報発信できるような体制づくりを行う。	B						
		学校ホームページにおいて、できる限り新しい情報を提供できるように、常に内容の更新を心掛ける。	B						
	志願者を増やし定員を確保するため、地域を中心に幅広い広報活動に努める。	中学校訪問に関する企画・運営を行う。	体験入学・親子相談会・進路相談事業に関する企画、運営を行う。	A	A	A	中学校訪問、体験入学・第8学年中学生進路相談事業等を通して、各学科が取り組む「魅力ある授業・実習」を伝えることができた。また、今年度から実施する「特色化選抜入試」に関しては、入試状況を把握しながら、入試の趣旨を十分説明し、継続して広報活動を実施していく。	B	
見やすくわかりやすい学校ホームページや学校案内パンフレットを心掛け、誰もが見たくなるような内容の充実を図る。			B						
体験入学・親子相談会・進路相談事業に関する企画、運営を行う。			A						
図書研修課	「分かる授業」の推進・実践への取り組み及び職員の資質向上を図る職員研修会の実施及び推進	授業アンケートを実施し、結果を授業改善に生かし、授業の充実・活性化を図る。	A	B	B	・昨年度に引き続き、タブレットを活用した授業アンケートを実施した。結果をもとに各教科でリフレクションを行い、各自授業改善に向け、客観的視点を得ることができた。 ・年間で2回以上の授業参観を推奨していたものの、参観後、実際に提出された報告書の数が非常に少なかった。研究授業及び参観の形態についての工夫が必要であると言える。	B	授業アンケートによる授業改善をしっかりと行ってほしい。	
		積極的な授業参観(含他教科)を促し、授業改善のヒント・助言の充実を図る。	C						
		校内外での研修の告知と推進を図り、時期に応じた効果ある研修を企画・立案・実施する。	B						
	図書の充実・図書館の利用向上及び図書委員会活動の活発化	生徒・教員の図書ニーズを把握し、蔵書の充実を図り、利用向上を目指す。	図書館利用のマナーアップを図り、誰もが利用しやすい図書館を目指す。	B	B	B	・書店へブックハンティングに行った。生徒の本への関心を高め、生徒の読書傾向やニーズを把握することができた。 ・文化祭では本の帯を作成し、展示した。どの帯が優れているかを来客に投票させ、生徒の頑張りを評価してもらった場をつくることができた。 ・今年度から図書室清掃を委員会で行うことになり、委員同士の交流を深めることもでき、委員会の役割を果たすための一助となった。	B	
図書利用のマナーアップを図り、誰もが利用しやすい図書館を目指す。			B						
委員会会議の定例化を図り、委員会活動の定着と周知に努める。			B						
第1学年	基礎学力の定着	教科担当者等を通して、各教科担当者との情報共有および連携を図る。	B	A	A	学習意欲に課題のある生徒が一部に見られるが、全体的には概ね落ち着いた雰囲気での学習に取り組むことができた。一部の心配な生徒に対しても、学級担任を中心に家庭と情報を共有し、本人及び保護者に対する働きかけを行った。 次年度も引き続き落ち着いた学習に取り組む雰囲気を継続したい。	A	中学校校までに学習習慣が確立していない生徒の指導について工夫が必要である。	
		家庭との連絡・面談を行い、情報共有および連携を図る。	A						
		毎日の清掃活動で落ち着いた学習環境を整備する。	A						
	基本的生活習慣の確立と規範意識の高揚	出席状況について家庭との情報共有および連携を図る。	挨拶や服装の指導を、学年全体で連携して行う。	A	A	A	全体的に落ち着いた学年であるが、主体性や積極性にやや欠けるところが見られる。リーダーの育成、主体的に活動する力の伸長が今後の課題である。 また、概ね出席状況も良好であるが、一部に心配な生徒も見られる。今年度に引き続き、家庭との連携を強化したい。	A	
			挨拶や服装の指導を、学年全体で連携して行う。	A					
			部活動や生徒会活動、行事への積極的参加を促し、帰属意識を高める。	B					
第2学年	損得でなく善悪で判断できる生徒の育成	服装や頭髪、挨拶、言葉遣いなどの指導を継続し、自らを律する姿勢を培う。	B	A	A	全体的に落ち着いた雰囲気での学校生活を送ることができている。次年度は最高学年として学校行事を作り上げる立場となるとともに、人生の岐路に立つ時期であることを十分に自覚させて、責任ある行動をとらせていきたい。	A	次年度最高学年としてのリーダーの育成が重要であり、しっかりと取り組まれている。	
		生徒との面談を継続的に実施する中で、日頃の言動を見つめ直す機会を作る。	A						
		教室や実習室等の整理整頓に努め、落ち着いた学習環境を整備する。	A						
	出席皆勤者57名(40%)を目標として、活気に満ちた学校生活を送る学年	家庭との連絡を密に行い、安易な遅刻・欠席を未然に防ぐ。	B	B	B	家庭との連絡や連携は各クラスでしっかりとれているものの、安易に遅刻・欠席する生徒の減少にはつながっていない現状がある。生徒自身の自覚を促しながら、活気ある集団作りを継続していきたい。	A		
全生徒が各行事において積極的に参加できるための環境や雰囲気作りを行う。	A								
第3学年	生徒の進路希望の実現	個人面談や三者面談を丁寧に行い、生徒や保護者との共通認識のもと、希望進路を決定させる。	A	A	A	今年度は応募前職場見学を実施し、一人平均1～2社の見学を行った。職場見学の実施により、職種の理解の向上や自己の進路決定を深く考える良い機会となった。課題として、求人票の解禁日から校内選考までの期間が短く、より早期からの職種決定が必要と考える。	A	最終の目標は進路実現であり、しっかりと指導していただいている。	
		早い段階から自己の進路について考えさせ、面接や小論などの対策、準備ができるように努める。	A						
	成人として、社会人としての自覚と責任感を持たせる。	文化祭等の学校行事において、最上級生として主体的に取り組む姿勢を培う。	A	A	A	生徒たちは農業関連の行事、文化祭などでリーダーシップを発揮し、運営に尽力していた。特に文化祭ではコロナの状況も落ち着き、2日間の規模で行い、新たな形で実施したが、生徒たちは柔軟に対応できていた。	A		
生徒会・農業クラブ・部活動で、リーダーとしての自覚を持たせ、積極的に取り組む姿勢を培う。	B								

農務部	授業内容の充実及び農業クラブ活動の活性化	資格取得の合格率60%を目指し、授業内容の充実を図り進路実現に繋げる。	A	B	B	今年度は3学科ともにICTを活用した学習が効果的に実施できた。特に、プロジェクト学習や専門教科の取り組みなど、生徒一人ひとりが工夫した学習内容を展開している。また、今年の農業クラブ活動では、意見発表大会、農業鑑定競技大会で造園デザイン科が最優秀賞をそれぞれ獲得し九州大会、全国大会へ出場を果たした。次年度は、農業3科それぞれに県年次大会で表彰されることが目標である。	B	農業クラブの指導の成果が全国大会出場という形で表れている。次年度も引き続ききめ細かな指導をお願いしたい。
		ICT、オンライン等を活用し、先端農業(スマート農業等)の学習形態に取り組む。	B					
		農業クラブにおける九州及び全国大会への出場を目指し、教科指導の徹底を図る。	B					
農務部	農業関連産業並びに関連機関との連携	農業関係機関の職員研修へ積極的に参加し、授業内容のレベルアップを図る。	B	A	A	今年度は、農業関連行事において販売会、作品展など多くの行事に参加し、そのための計画・準備など教育効果を含め、実りある活動を実施することができた。また、地域企業と連携した学習指導や資格取得など、各学科において特色ある取り組みを実施していることもあり、高い合格率を保つことができていた。次年度は、専門職の進路開拓と進路指導につながる取り組みが課題である。	B	
		地域企業・農大校等関係機関との更なる連携(行政・企業との情報交換、商品開発等)	A					
		各種行事(地域のまつり)へ積極的に参加し、学習環境を整える。	A					
生物工学科 園芸技術科	学習環境を整え、基礎学力の定着を図り、社会的自立の基盤となる確かな学力の育成を目指す。	毎時間のノート及び課題レポートの提出と記述内容の指導を徹底し、表現する力をつける。	A	A	A	専門教科である「総合実習」、「課題研究」の記録において実習内容の観察、記録の工夫を徹底した。生徒たちは、実習における作業時の工夫や取り組みを記録することができた。次年度も、継続して指導していき、進路指導の一環として表現する力、文章のまとめ方をきちんと身に付けさせたい。また、ICTの活用を継続し、農業分野の知識及び技術を身につけさせ、将来の進路に繋げる。	B	課題研究において探究学習が社会を切り拓く力に繋がっていく。農業における身近な課題に取り組んでもらいたい。
		実習ノート及びレポートの書き方指導を行い、自発的に取り組む力を育成する。	B					
		生徒の学習意欲を引き出す教材の作成・工夫、ICTの活動等をおとして、具体的な授業を展開する。	A					
農務部	専門知識と技能を身につけさせるとともに勤労観、職業観、コミュニケーション力を育成し、進路実現を目指す。	社会人招聘事業・現場実習等を実施し、進路目標の充実を図る。	B	B	B	本年度は、校外での活動として多くの販売会に参加し、本学科の生産物を地域に情報発信することができた。生徒たちの専門的知識や技術の向上を図るためにも、地域社会で活躍されている方と連携していくことが重要である。また、販売会や公共施設の花壇製作、社会人招聘事業等を積極的に実施するなど、進路指導の推進を図る。	B	
		実験・実習を通して準備・実施・片付けまでの一連の流れを指導し、安全教育、危機管理能力を身につけさせる。	A					
		進路や面接指導などを意識した専門教科指導を充実し、進路意識の高揚を図る。	B					
食品流通科	「学校のパン屋さん」を学科の柱となる活動に進化させる。	毎週水曜日の「課題研究」で「学校のパン屋さん」を実践し、校内販売を充実させる。	A	B	B	学校のパン屋さん、新商品開発等「食品流通科の魅力」を中学校や地域の方へ発信する。取り組みは定期的に来るようになったが、広報活動に繋がっていないのでHP等を活用して情報発信を行う。	B	学校のパン屋さんやミネストローネなど学校の新商品開発に取組まれている。学校のPRに繋がっている。
		取り組みを学科宣伝ツールとして進化させる。	B					
		栽培から加工までの製造技術習得、販売までの学習体制の深化を図る。	B					
農務部	入学定員を確保するための広報・PR活動の強化と充実を図る。	中学生・保護者が見たくなる情報発信形態への更新	A	A	A	特に久留米市と連携し、本校が独自に取り組んでいる「商品開発」をPRしながら中学校へ広報活動を行う。同様に旧浮羽郡地域へのPR活動を行う。また、三井・小郡地区への情報発信を工夫する必要がある。	B	
		在校生による出身中学校訪問で学習内容の紹介・高校生活報告を行う。	A					
		学校説明会の学校紹介ツールを充実させる。	B					
環境緑地科 造園デザイン科	学習意欲の向上に努め、学力の定着を図る。	座学・実習を問わず記録時間を設定し、書く習慣を身につけさせる。	B	B	B	造園・測量関連の進路実現を目標に取り組んだ。専門職に就くことを目標に取り組む生徒と前向きに取り組めない生徒との差が大きい。意識を高く持った生徒の好影響もあり、農業クラブの各種競技大会、意見発表大会など福岡県年次大会で、最優秀賞を獲得することができた。次年度については、九州大会や全国大会で結果が残るような教科活動を充実、展開していくことが課題である。	B	造園関係の求人は非常に多いことが分かった。その一つに学科で力を入れている資格取得の取組があげられる。
		進路実現に向けて早期の進路指導を推進する。	A					
		教員の技術研修の機会を設定し、資質と技術の向上に努める。	B					
農務部	短大・地域・企業との連携推進を図り、専門力を高められる技術指導に努める。	校外実習でのボランティア精神の高揚に努め、学習環境を整える。	A	A	A	前年度に比べ、多くの地域行事に参加できた。学年を問わず、生徒たちも意欲を持ち積極的に取り組めた。そのため、行事に係る準備など多くの時間を必要としたが、学科内活動も盛んに実施することができ、生徒間、職員間の連携にも良い結果が見られた。次年度はHPなど効果的に活用し、生徒募集に繋がる取り組みを実施していく。	B	
		現場実習の新規開拓を実施し、進路実現につながる連携強化を図る。	A					
		地域行事等に積極的に参加できるように学習環境を整える。	B					
社会福祉科	基本的な生活習慣の確立と社会性、専門性の育成	挨拶、時間厳守、服装等のマナーアップを指導し基本的な生活習慣の確立を支援する。	C	B	B	学校行事や学習に取り組む姿勢など、高い意欲や関心を示す生徒が見られる。一方で、遅刻や欠席をする生徒が減らない、頭髪や服装などに何度も繰り返し指導を要す状況がある。当面は、基本的な生活習慣の習得に向けた指導の在り方を見直すと同時に指導の徹底、強化を図りたい。	B	福祉関係の授業は大変充実しているが、生徒募集に繋がる外部向けの取組を行ってほしい。
		学習意欲や関心を引き出す授業環境や学習教材を整える。	B					
		介護実習等を通し、自律心、社会性、専門性を育成する。	B					
農務部	希望進路、介護福祉士国家資格取得の実現	学年、学科で協同し、3年間を通し個人に合わせた見通しある支援を行う。	A	A	A	学校生活や資格取得、希望進路実現において、担任や学科職員だけでなく、学年団、進路指導課、保健課、家庭などと協力や連携を大事にした関わりができた。また、生徒一人ひとりが抱える様々な問題への対応や改善に向けて、組織的な関わりができる体制作りが今後さらに必要だと感じている。	B	
		幅広く柔軟な進路保障と進路実現に努める。	A					
		進路保障と進路実現に必要な資格取得の重要性・必要性について理解させ、意識向上を図る支援を行う。	B					
食物調理科	食物調理科の魅力発信	Instagramやホームページにて情報を発信する。	B	A	A	今年度は中学校訪問の際に筑紫野、太宰府地区を重点的に訪問した。受験へ直結することは難しいと感じたが、それぞれの学校の様子等がわかったことはよかったと感じる。また、JA久留米等とともに特別授業や企画に参加できたことは本学科の魅力発信に繋がったと思う。次年度も継続していきたい。	B	道の駅弁当や学校給食、ホテル実習など、様々な取組について知ることができた。この取り組みが生徒募集に繋がっていると思われる。
		地元イベントに積極的に参加する。	A					
		中学校訪問の地区を精選して実施する。	A					
農務部	専門的な知識・技術の定着と進路実現	職員が研修等に積極的に参加し、最新の情報や知識を取り入れる。	A	B	B	九州地区家庭研究協議会へ参加し、新たな情報や知識を学ぶことができた。資格取得、検定においては、食生活アドバイザー、食物調理技術検定の合格者数を伸ばすことができなかった。指導・対策が結果に繋がってない現状であるため、次年度に向けて指導方法を検討し、準備を進めていく必要があると考える。	B	
		個別指導・支援を細やかに行う。	A					
		資格取得や検定合格に向けて指導・対策を丁寧に行う。	B					
事務部	教育環境整備の充実	各分掌と情報の共有化を図り、予算執行の教育的効果を高める。	B	B	B	施設点検や各科からの報告を基に、空調設備の新設や修繕、電機温蔵庫等の大型備品購入や今後危険が予測される高圧ケーブル修繕等を実施した。今後も各分掌と情報を共有し生徒が快適に過ごせる環境整備に努めたい。	B	教育環境整備の充実に向けて取り組まれている。
		教育施設の安全点検、改善について徹底を図る。	A					

自己評価及び学校運営協議会評価を踏まえた今後の改善策

- ・学習環境を整え、基礎学力の定着と自ら学ぶ力の習得を図り、社会的自立の基盤となる確かな学力を育成するとともに、実践力を向上させる。
- ・農業・福祉・調理の専門分野におけるスペシャリストの育成に加え、社会の状況を踏まえた幅広い人材を育成するため、キャリア教育の充実を図り、希望進路を実現する。
- ・対人コミュニケーション能力の育成と規範意識の高揚を図るとともに、自律心と自分と異なる他者への理解と思いやりのある心豊かな人間を育成する。
- ・5つの学科それぞれの魅力を高める改善に努め、生き生きと学ぶ生徒の姿を地域や中学校へ積極的に発信する。

評価項目以外のものに関する意見